

学生の自己評価能力を高める実習指導方法に関する研究

【キーワード：自己評価、実習指導、分娩介助実習】

領域・氏名

看護（小児看護学）講師 / 橋口奈穂美

概要

助産師教育では学生一人につき分娩を10例程度直接取り扱うことが規程されています。更に正常分娩においては分娩期の診断とケアについて、学生は少しの助言で自立してできるようになることが到達目標として求められています。学生は、分娩介助1例毎に自己評価を行い指導者からの評価を受けることで、次に向けての自己課題を明らかにして、分娩期の診断とケアの実践能力をつけていきます。学生が到達目標をめざして効果的な実習ができるかどうかは、学生と指導者の実習の振り返り（評価）の仕方に左右されるとも言われています。研究では、学生が適正に自己評価できるための実習指導方法を明らかにすることに取り組んでいます。

具体的な内容

分娩介助1例毎に学生と指導者の振り返りを研究素材として分析します。振り返りでの学生の発言に対して指導者の考えや感じたこと、それに基づいて発言したことを分析し、学生の自己評価能力を高める実習指導上の指針を導き出していきます。

実習指導についてはこれまでに、「臨地実習における指導過程の『省察』的取組の成果 -分娩介助実習における指導上の実践知の検討-」など、実習中の指導についても検討してきました。

Information（情報）

実習指導に関する事以外にも、新人助産師への支援や助産師のキャリアアップのための研修会の企画・運営なども行っています。